

障壁及び障壁に対する解決策の設問に対して、因子分析（最尤法・プロマックス回転）をおこなった。

「1人で商業施設に行くときの具体的な障壁」について4因子を抽出し、因子負荷量からそれぞれの特徴を考察し、各々の因子に名前をつけた。

- 第1因子：カクテルパーティー効果が作用しないことによる障壁
- 第2因子：BGMによる障壁
- 第3因子：気配に気づきにくいことによる障壁
- 第4因子：コミュニケーションが円滑に取れないことによる障壁

1人で商業施設に行くときの具体的な障壁	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
セルフレジでの支払い時に音声案内が聞き取りにくい	0.858	0.116	-0.180	-0.147
店頭での呼び込みの音が聞き取りにくい	0.709	-0.034	0.120	-0.013
スピーカーによる呼び出しの音が聞き取りにくい	0.698	-0.080	0.007	0.136
レジが複数ある時、空いているレジへの誘導の音が聞こえづらい	0.594	-0.056	0.192	0.021
BGMが聞こえない	0.526	0.024	-0.007	0.068
BGMによってコミュニケーションが遮られる	-0.030	1.007	-0.060	-0.009
BGMによって情報取得が遮られる	0.022	0.896	0.016	0.047
音に疲れて早くこの場から出たいと思うことがある	0.222	0.367	0.299	-0.035
商業施設の駐車場にて自動車の接近に気づかない	-0.036	-0.046	1.010	-0.124
エスカレーターやエレベーターで他の客に話しかけられても反応できない	0.193	-0.065	0.459	0.159
店員の気配に気づかず、急に話しかけられてびっくりする	-0.076	0.220	0.442	0.170
何度も聞き返すなど店員とコミュニケーションがうまく取れない	0.159	-0.048	-0.079	0.730
店員による商品(メニュー)の説明が聞き取りづらい	-0.212	0.044	0.127	0.729
支払い時に店員の音が聞き取りにくい	0.152	0.059	-0.136	0.587

「複数人で商業施設に行くときの具体的な障壁」について3因子を抽出し、因子負荷量からそれぞれの特徴を考察し、各々の因子に名前をつけた。

- 第1因子：カクテルパーティー効果が作用しないことによる障壁
- 第2因子：音源定位が出来ないことによる障壁
- 第3因子：ポジショニングに気を遣うことによる障壁

複数人で商業施設に行くときの具体的な障壁	第1因子	第2因子	第3因子
一緒に行った人との会話でBGMによって聞き取りづらい	0.869	-0.009	0.038
一緒に行った人との会話で店内の人の声によって聞き取りづらい	0.811	-0.056	-0.065
一緒に行った人を意識していることにより店員の声に反応できない	0.545	0.137	0.057
商業施設内で遠くから話しかけられると、どこから声がかかるかわからない	-0.092	0.976	0.015
商業施設内で遠くから話しかけられると、相手を見つけにくい	0.195	0.631	-0.053
複数人で席に着くときは場所取りに気を遣う	0.025	0.279	0.272
立ち位置を自分が聞きやすいように移動している	0.000	-0.028	1.002

「1人で商業施設に行くときの具体的な障壁対処」についての2因子を抽出し、因子負荷量からそれぞれの特徴を考察し、各々の因子に名前をつけた。

- 第1因子：音を聴くための行動
- 第2因子：音を聴かないための行動

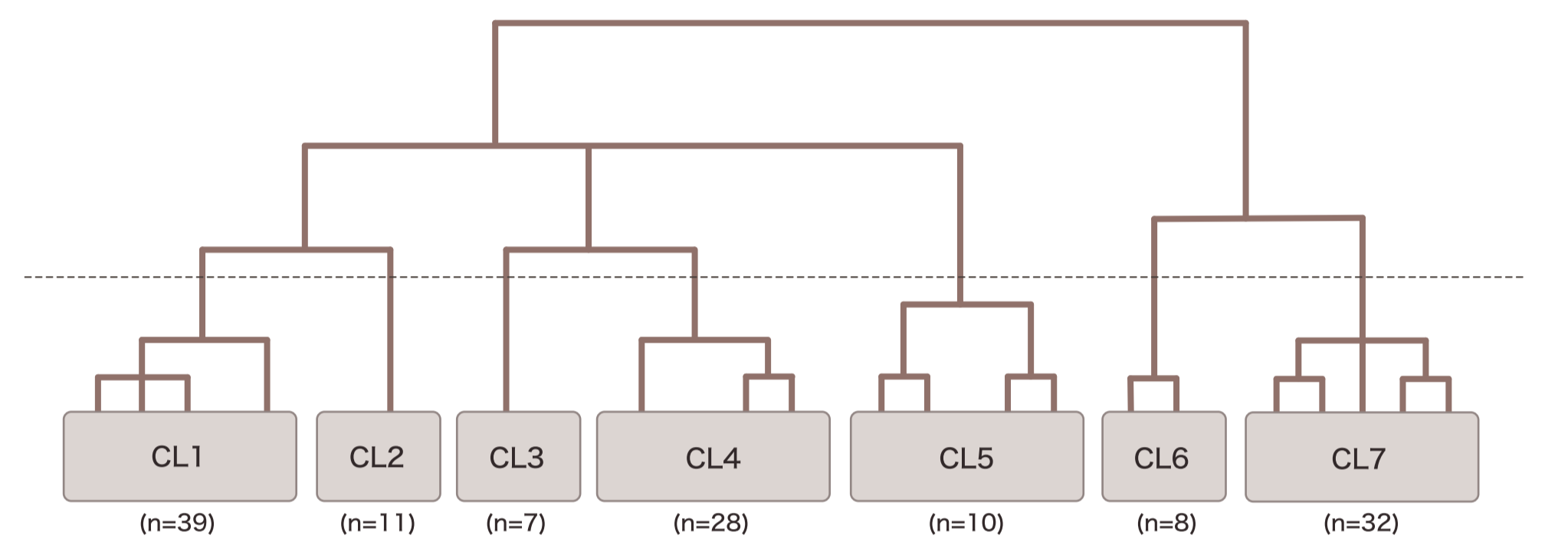
1人で商業施設に行くときの具体的な障壁対処	第1因子	第2因子
常にアナウンスや店員の声に注意を払っている	0.659	0.01
避難経路を把握している	0.644	-0.136
看板や標識をよく見る	0.598	0.167
特定の店舗にしか行かない	0.480	0.033
通路の歩く位置を変える	0.412	-0.043
イヤホン等をして店内の音を遮断している	-0.030	1.008

「複数人で商業施設に行くときの具体的な障壁対処」についての2因子を抽出し、因子負荷量からそれぞれの特徴を考察し、各々の因子に名前をつけた。

- 第1因子：その場しのぎでの行動
- 第2因子：事前確認を含んだ行動

複数人で商業施設に行くときの具体的な障壁対処	第1因子	第2因子
常にアナウンスや店員の声に注意を払っている	0.938	-0.226
看板や標識をよく見る	0.417	-0.074
特定の店舗にしか行かない	0.384	0.186
避難経路を把握している	0.148	0.905
通路の歩く位置を変える	0.161	-0.288

4種の因子分析から得られた因子得点を用いて、Ward法によるクラスター分析をおこない、デンドログラムから7群に類型化した。



類型化したクラスターごとにクラスカルウォリス検定をおこない、その後Bonferroniによる多重比較をおこなった。各クラスターの特徴をレーダーチャートで比較する。レーダーチャートが多角形の外側に位置している場合は、それぞれの障壁を強く感じている、あるいは障壁対処の意識が強いことを示している。

CL1 はどの障壁に対してもあまり強障壁と感じておらず、感じる障壁について特に対処しようとしていない。**CL2** は全クラスターの中で最も年齢層が低く、1人で商業施設に行くときはイヤホン等を装着し周りの音を遮断する傾向がとて強い。**CL3** は慎重に行動していて、気配に気づきにくいことによる障壁をあまり感じていない。また、全クラスターの中で最も年齢層が高い。**CL4** はどの商業施設においても障壁と感じる頻度が高く、聞きたい音を聞こうとするがそれが聞こえないことに対して障壁と感じ、気配にも気づきにくい。障壁対処にも一番積極的で、日頃から一側性難聴であることの障壁を補う努力をしている。**CL5** は全体的に障壁を感じにくい傾向にあり、複数人で商業施設に行くときにポジショニングに気を遣うことを障壁と感じていない唯一のクラスターである。両耳が聞こえにくい人が多く、補聴器使用者も多い。**CL6** は全体的に障壁を感じにくく、それに伴い障壁に対する行動もあまりおこなっていない。一側性難聴特有の生きづらさをあまり感じておらず、健聴者と同じように商業施設を楽しむことができているグループであると考えた。**CL7** は音が聞こえないこと・気配に気づかないこと・音疲れの3つによる障壁度合いが他のクラスターより低い。全体的に障壁を感じにくく、それに伴い障壁に対する行動もあまりおこなっていない。

